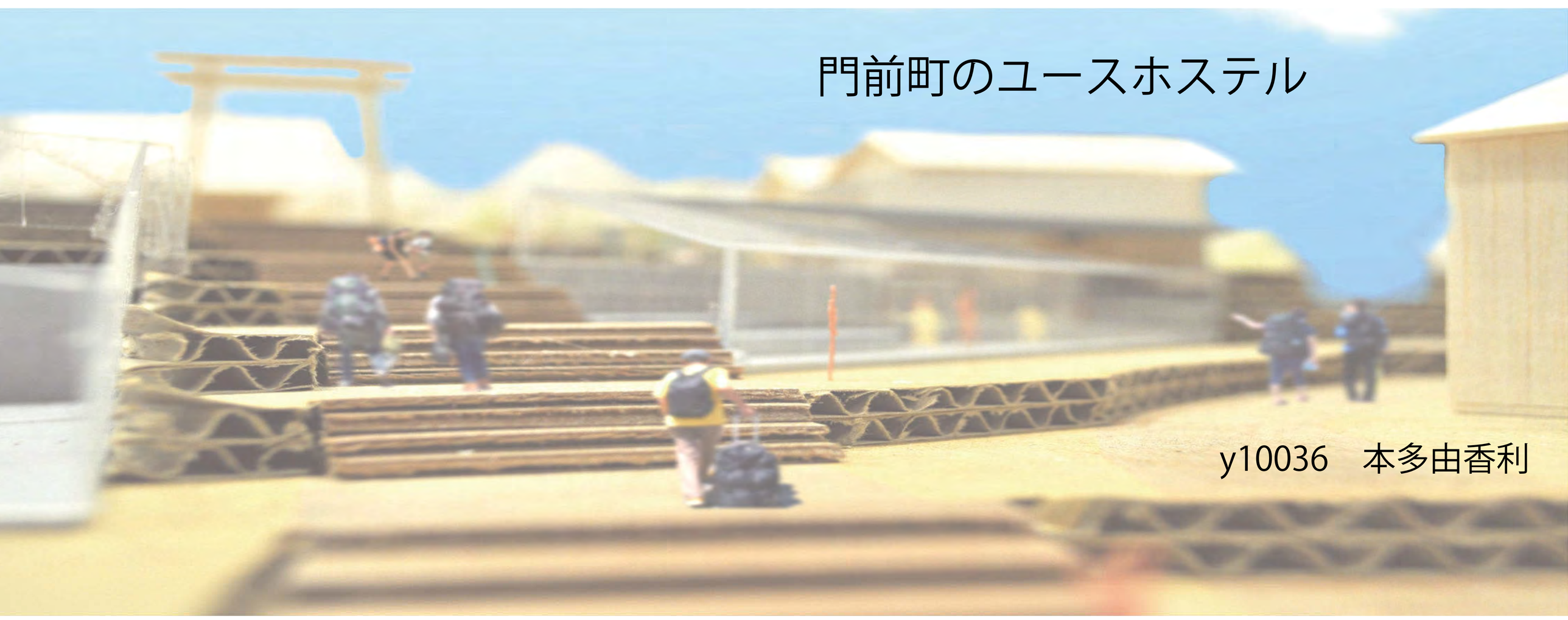
門前町のユースホステル



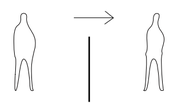
y10036　本多由香利

prolog

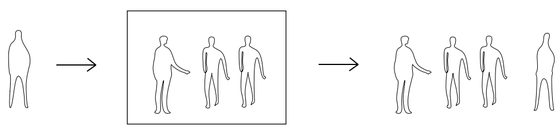
富山県南砺市は近年過疎化が進み、大幅に人口が減少している (南砺市全体平成 12 年 60,182 人→平成 22 年 54,724 人で 9.1% 減少)。対象地域の南砺市井波地区は全国有数の彫刻産業地で街の至る所に彫刻を扱う店が点在している。しかし、近年は伝統的な彫刻産業も衰退の一途をたどっている。そこで南砺市井波地区を活性化させるプロジェクトを提案する。対象敷地は井波地区にある古い神社とその住宅である。これをユースホステルにコンバージョンすると仮定する。近年日本ではグローバル化が叫ばれ、外国人との文化交流がより重要となっている。しかし、地方都市ではそのような機会を得られる場所が不足している。そこで日本の文化を知ってもらい、地域の人との交流ができる外国人バックパッカー向けのユースホステルを創ることで住宅をできる限り長持ちさせて、かつ街の活性化をはかる。

concep

1、バックパッカーとその場所にいる人達との交流の
　場をつくり地域の文化交流の拠点にする

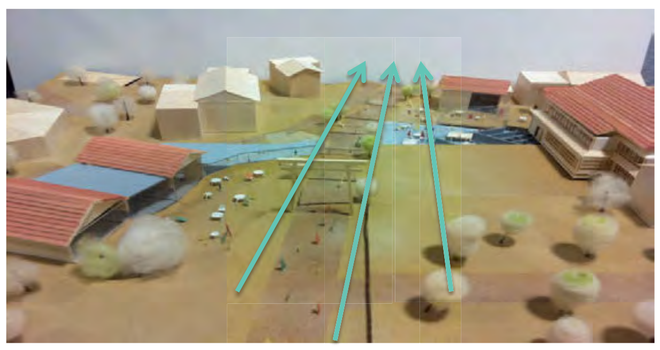


AとBの目が合う
AがBの所に行く



AはBに直接ではなく、
ある空間を通ってから行く　→　そこで別の人も巻き込み、
新しいコミュニティが出来る

2、神社境内の景観を過度に乱さない

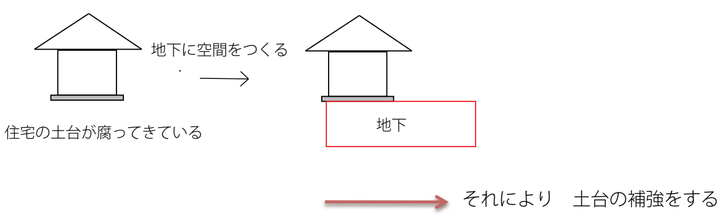


3、住宅を長生きさせる

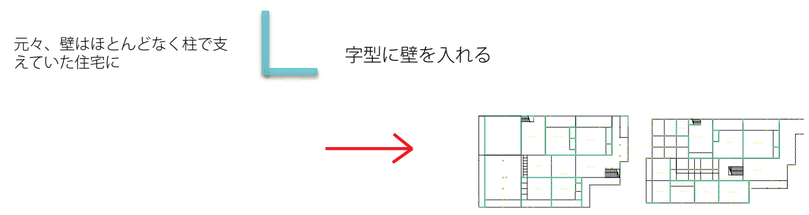
その１

住宅に住み手がいない　　そこに住み手を与えて住宅を長持ちさせる

その２

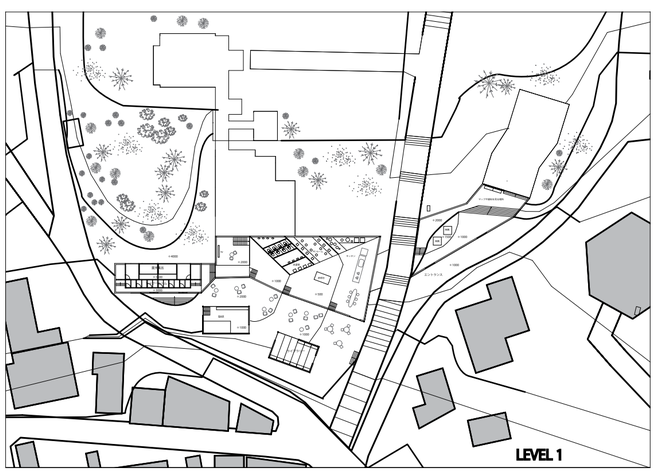


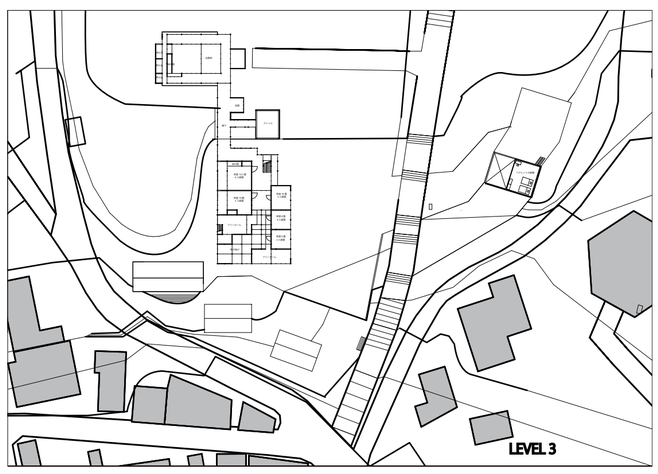
その３



site

瑞泉寺に隣接する井波八幡宮の境内を対象とする。境内は社殿、社務所、住宅、蔵、御神輿倉庫がある。住宅、倉御輿倉庫を使ってユースホステルにする。





平面図　１／４００